

新技術名称	〇〇		開発会社名		登録番号	
評価基準	評価項目	評価細目	評価	コメント(既存技術との優位性)		
社会的・施策的ニーズとの適合性	安全性	労働災害の可能性	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		作業環境	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		第三者災害の可能性	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		その他		既存技術との比較(優位性)を具体的かつ簡潔にコメントしてください。		
	品質・出来形	品質	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		出来形	B	既存技術より向上するものはA、同程度のものはB、低下するものはCを記入してください。		
		管理頻度、項目	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		その他				
	環境	大気、土壌汚染、騒音、振動	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		周辺環境への影響	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		自然、生態、景観等の調和	B	…であるため、可能な限りコスト換算して記入してください。特に材料、製品、施工コストが既存技術より増加する場合は総合コストで安価となる説明が必要です。		
		その他				
	経済性	材料、製品コスト	A	…であるため、既存技術より7%低減できる。		
		施工コスト	A	…であるため、既存技術より20%低減できる。		
		ライフサイクルコスト	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		環境コスト	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		社会コスト	A	工期短縮により交通規制期間が短縮されるため、市街地での社会コストとして既存技術より10%低減できる。		
		その他コスト				
		総合コスト	A	社会的コスト縮減を除いても、既存技術より約9%低減でき、公共投資抑制に伴うコスト縮減のニーズに対応したものである。		
	施工性	施工の合理化	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		熟練工の依存度	B	…であるため、既存技術と同様である。		
		工期短縮	A	従来型より〇〇が約半分となるため工期が大幅に短縮でき、市街地における工期短縮の社会的ニーズに応えたものである。〇〇市では、住民の要望を受け既存技術から本工法へ変更し高い評価を受けた。		
		その他				
	リサイクル性	リサイクルの推進	B	…であるため、既存技術と同様である。		
廃棄物の発生抑制		A	…であるため、既存技術より10%廃棄物の発生が抑制される。			
省資源		C	…であるため、既存技術より燃料消費量が5%増加する。			
省エネルギー		B	…であるため、既存技術と同様である。			
その他						

評価: 既存技術より向上するものはA、同程度のものはB、低下するものはCを記入する。
評価細目に予め示されている内容はできる限り記入してください。評価細目は適宜追加してもかまいません。